

研究者として

研究は「させられている」のではなく「させていただいている」ものである
研究をするときは、常に前向きに、明るくふるまう必要がある
研究指導者があなたのために使っている時間は、指導者自身の時間を自ら削っていることを忘れてはいけない
もし、あなたが研究指導をする機会に恵まれたら、時間を惜しまず精一杯対応するべきである
研究にゴールはない。満足できないから研究は続けられるのである

学会はお祭りである。学会発表はお祭りのなかで騒いでいるにすぎない。論文を書かないと意味がない
学会発表は、あなたが研究活動をしているというアピールになる
学会発表は、あなたの組織のアピールになる
あなたが学会で発表することは、周りの人への刺激になる

論文は、完成して受理されてこそ価値がある。書いている努力は誰も評価してくれない
論文を書かなくてはならないという危機感を、常に持ち続けることが必要である

なぜ、研究をしているかを明確にする
なぜ研究するか、その答えは、「患者さんのため」である
患者さんの利益に直結しない研究は、研究ではない

教員が研究することは、あなたの大切な学生と信頼関係を深めることになる

臨床家の価値はどれだけ患者さんを活せるかで決まる。症例報告はその証である
教員は研究内容を学生に解説できることが重要である。それが教員の価値につながる
だから、研究はやり続けることが必要である